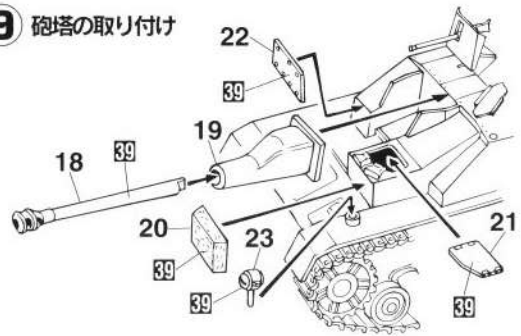


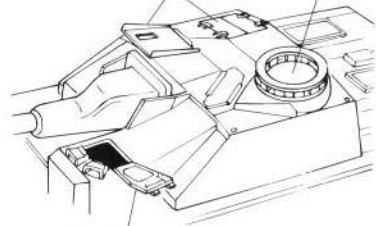
9 砲塔の取り付け



☑️ どちらかを選んでください

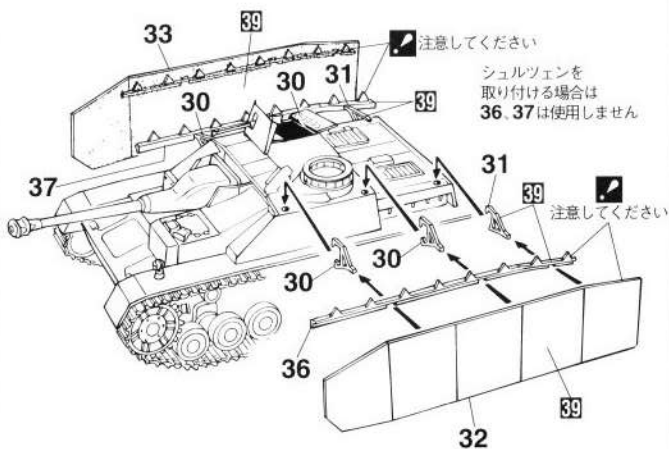
ハッチを閉じる場合は
MGシールドを前へ倒します

閉じた状態の
ハッチ



開いた状態のハッチ

10 シュルツェンの取り付け



☑️ 注意してください

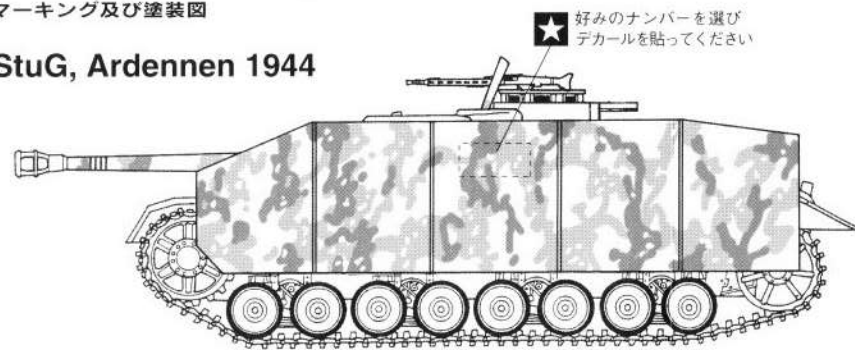
シュルツェンを取り付ける場合は
36, 37は使用しません

☑️ 注意してください

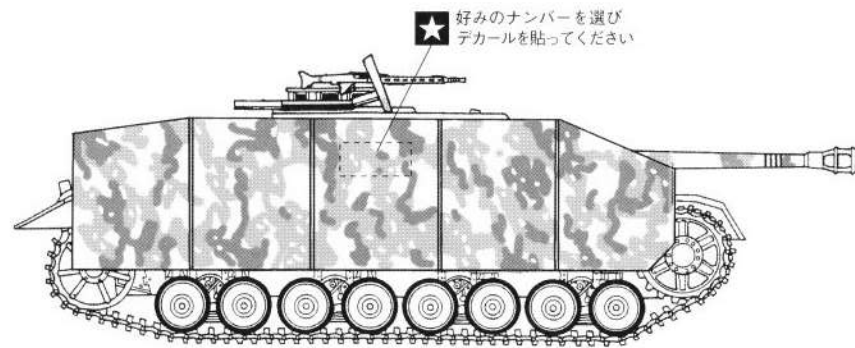
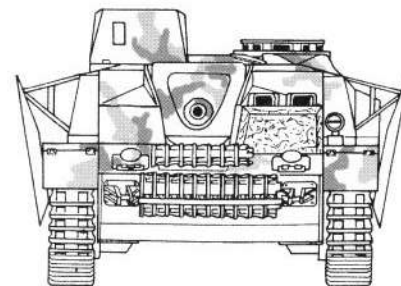
Marking & Painting

マーキング及び塗装図

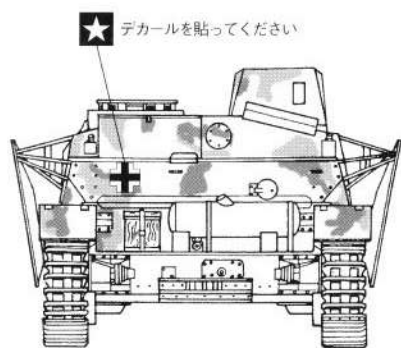
StuG, Ardennen 1944



★ 好みのナンバーを選び
デカールを貼ってください



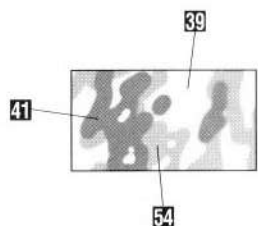
★ 好みのナンバーを選び
デカールを貼ってください



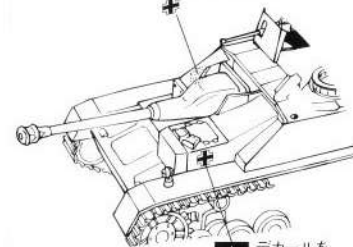
★ デカールを貼ってください

■ 塗装について

1943年2月からドイツの軍用車両はすべてダークイエローに変わりました。迷彩はこの上にカーキグリーン、レッドブラウンを使用して作戦に応じて現地でおこなわれました。迷彩の方法はスプレー、ハケ塗りのほかに直接塗料をふりかけたものもあります。模様はインクスポット(はん点)、メロメロ(しま状)、ジグザク等多くの種類があります。冬期にはウインターホワイト(灰色がかった白)がこの上にハケ塗りされましたが、水性ペイントのため行動中に落ちてしまい、白と他の色の迷彩のようになります。1945年春には重戦車、重火器に限ってジャーマングレーで塗装されました。



★ デカールを貼ってください



★ デカールを貼ってください

■ ターレットナンバーについて

ターレット(砲塔)に書かれた3桁の数字で所属する部隊を示すものです。

- 1桁目…戦車番号
- 2桁目…所属する小隊番号
- 3桁目…所属する中隊番号
- R…連隊本部中隊

数字は白または赤に白のフチ取りのものが使用されましたが、後期になると、黒色に白の縁取りのものも使われ、また白フチだけのものもありました。

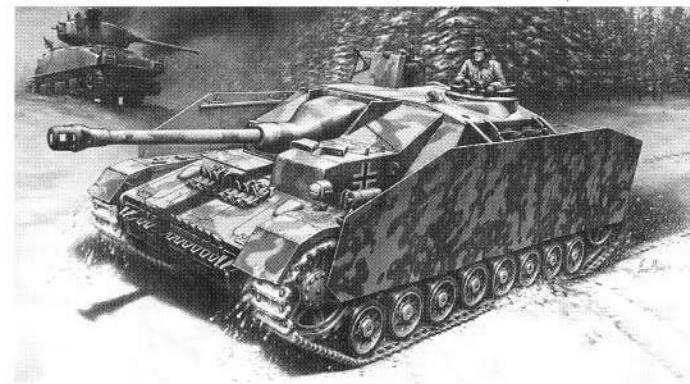
STURMGESCHÜTZ IV Sd.Kfz.167

Hasegawa
Hobby kits

MONOGRAM

HM91 1:72

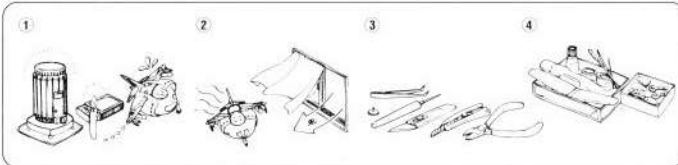
IV号突撃砲 Sd.Kfz.167



1941年6月22日、バルバロッサ作戦の開始により、当時ドイツ軍の主力装備である対戦車砲部隊の37mmPAK35/36に対して、ソビエト軍の76mm戦車砲を装備したT-34やKVは、火力、装甲ともに数段上回るものでした。何とか対抗できる兵器は50mm砲搭載のIII号戦車と、75mm砲搭載のIV号戦車、III号突撃砲だけでした。このためドイツ軍は装甲の強化と対戦車戦闘力を高めるため、当時開発中であった高初速砲身の75mm戦車砲を搭載するIII号突撃砲の実用化を急ぎました。1943年一段と激しさを増した連合軍の攻撃により、同年11月にIII号突撃砲の生産を行っていたアルケット社の生産施設が空爆により壊滅的損害を受け生産数が激減してしまいました。さらに前線では突撃砲を求める声が多く、新しい突撃砲の開発が急がれました。それによりIV号戦車の車体を突撃砲に用いることとなり、III号突撃砲の武装と上部構造をIV号戦車のシャーシに結合したIV号突撃砲Sd.Kfz.167として移管されたクルップ・グルゾン社で生産されました。同年12月には早くも試作機が完成し、以後生産は1945年4月まで続けられ1,141両が完成しました。このIV号突撃砲はザウコップレント型防盾付きの長砲身40型75mm加農法を搭載し、独立突撃砲旅団、独立突撃砲大隊、および大戦末期には主戦闘戦車の代替えとして、戦車師団と機甲歩兵師団の戦車大隊に装備され対戦車自走砲として活躍しました。

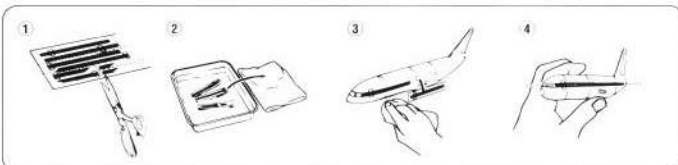
《データ》Sd.Kfz.167 乗員：4名、戦闘重量：23.0t、全長：6.700m、全幅：2.950m、全高：2.200m、主砲：48口径 75mm突撃砲 40型、エンジン：マイバッハ HL120TRM型、制動馬力：300hp、燃料型式：ガソリン、変速装置：シンクロメッシュ式 前進6段・後進1段、最大速度：路上38km/h 路外16km/h

このキットには接着剤は入っていないので別にお求めください。



■楽しい工作のための4つのポイント

1. 火の近くでは接着剤や塗料を使用しない。
2. 接着剤や塗料を使うときは窓を開ける。
3. 残った接着剤や塗料はふたをして、幼児の手の届かない日かげに保存する。接着剤や塗料は有機用材を含んでいるため、吸うと有害でくせになり健康を害することがあるので故意に吸ってはけません。
4. ナイフや工具を正しく使おう。部品をランナーから切りはなす時は模型用ハサミを使用し、余分な部分はカッター、ヤスリ等で仕上げます。
5. 組立中でも整理整頓しましょう。



■デカールのじょうずな貼り方

1. デカールを貼るところのほこりや汚れを、ぬらした布できれいにふきとってください。
2. 貼りたいデカールを台紙ごとハサミで切りとり、1枚ずつ水またはぬるま湯に台紙を下にして20秒くらい浮かべます。
3. 水から出したらタオルの上のせ、指先でデカールが動かか確かめた後、貼るところにおいて静かに台紙をずらします。
4. 指先に少し水をつけて正確な位置にデカールを動かした後で、やわらかく、よく水を吸う布でデカールを押さえて内側の水分や気泡を押し出します。
5. デカールが完全に乾いたら少し水をつけた布で、デカールのまわりのノリをふきとります。

■記号の説明

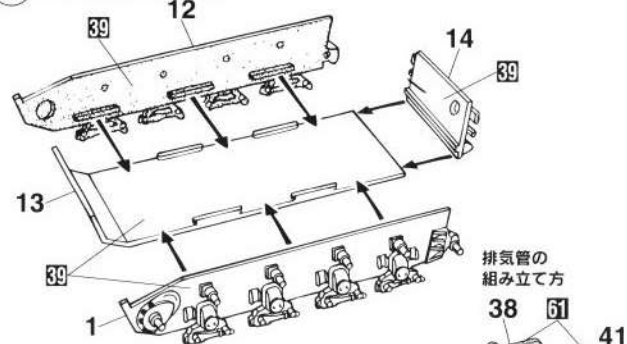
- x2** 2組つくってください。
- ↔** どちらかを選んでください。
- !** 注意してください。
- ★** デカールをはってください。

■塗料の指定

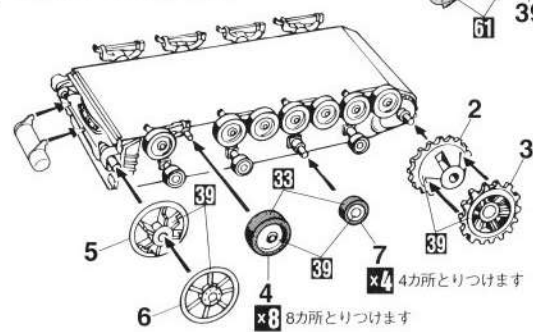
1はグンゼ産業・Mr.カラー、H[1]は水性ホビーカラーの番号です。

28	H18	黒鉄色	STEEL
33	H12	つや消しブラック(黒)	FLAT BLACK
39	H79	ダークイエロー(サンディイエロー)	SANDY YELLOW
41	H47	レッドブラウン	RED BROWN
43	H37	ウッドブラウン	WOOD BROWN
54	H80	カーキグリーン	KHAKI GREEN
61	H76	焼鉄色	BURNT IRON

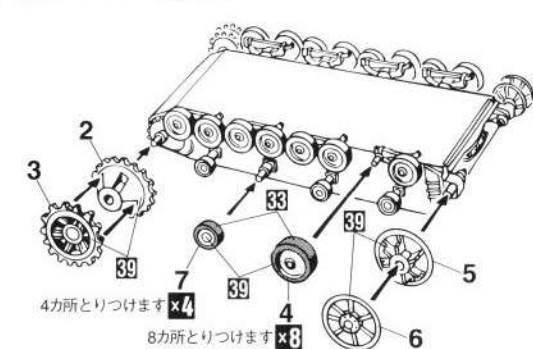
① 車体下面の組み立て



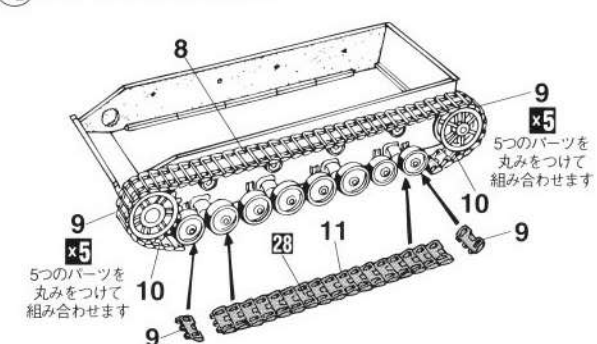
② 左側ホイールの取り付け



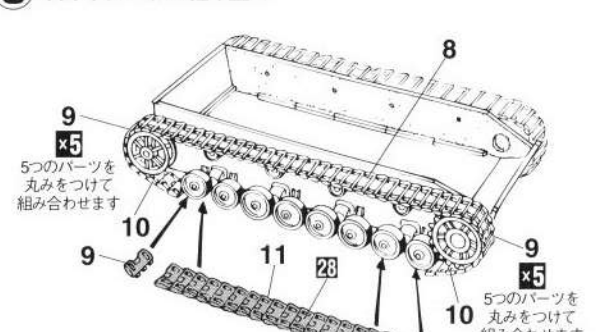
③ 右側ホイールの取り付け



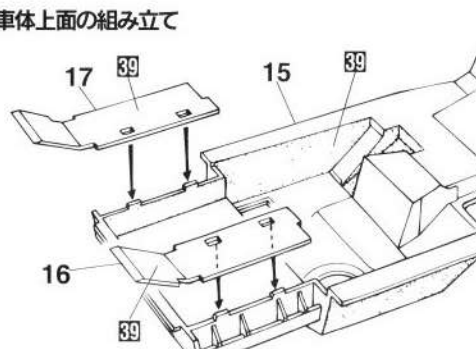
④ 左キャタピラの組み立て



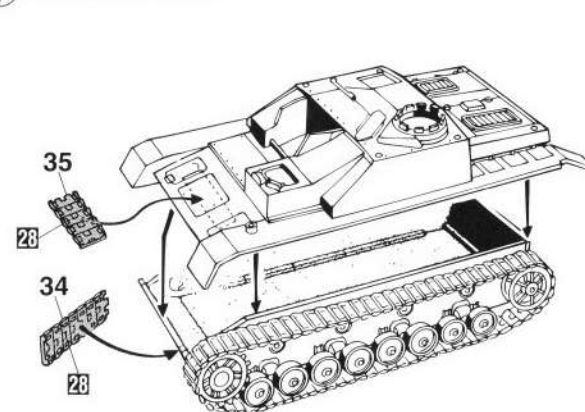
⑤ 右キャタピラの組み立て



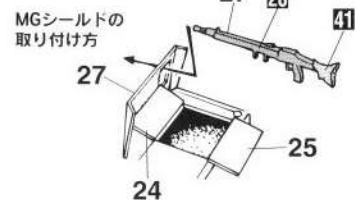
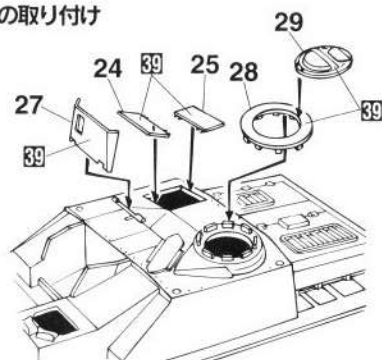
⑥ 車体上面の組み立て



⑦ 車体上面の取り付け



⑧ ハッチの取り付け



1233456 R0

1233456 R0

135 + 135

331 + 331

R02 + R02



1233456 R0

1233456 R0